

AEDを用いた一次救命 処置の解説

JRCガイドライン2010準拠



突然に心停止した人を救命するためには
「救命の連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)」が必要です。

- 1) 心停止の予防
- 2) 心停止の早期認識と通報
- 3) 一次救命処置(CPRとAED)
- 4) 二次救命処置と心拍再開後の集中治療
(救急隊や病院での処置)

以上の4つが連続して行われることが必要です。

この4つのうち、どれか1つでも途切れてしまえば、救命効果は低下してしまいます。

特にバイスタンダーとなる市民は、この救命の連鎖のうち最も重要な、最初の3つの鎖を担っているのです。

①周囲の安全確認



目の前で人が倒れていたら周囲の安全を確認し、歩み寄る。

②反応(意識)の確認



肩を叩きながら声をかける。顔をしかめるなど、「目的のある仕草」が、なければ反応なしとする。

③119番通報とAEDの手配



大声で助けを求め、目の合った人に119番通報、AEDを頼む！
【必ず名指しをお願いします】

④心停止の確認



胸と腹部の動きの観察をし、反応が無く呼吸が無ければ心停止と判断する。【死戦期呼吸(しゃくりあげるような不規則な呼吸)は心停止とする。

【免責規定】

心停止の現場に居合わせた一般市民(バイスタンダー)が緊急避難的にAEDを使用することは、医師法違反にならない。このことは、蘇生行為が民法第698条の緊急事務管理に相当するため、救命に関わった一般市民が不成功に終わった時でも損害賠償請求の対象とならないと明確にされている。

【小児への対応】

0歳から未就学児(およそ6歳未満)に変更された。

⑤直ちに胸骨圧迫開始



1分間に100回以上のリズムで胸が深く沈むまで、強くすばやく圧迫してください。

⑥可能であれば人工呼吸



可能であれば、30回の胸骨圧迫後に人工呼吸を2回行う。(人口呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを行う)

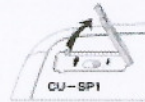
AEDが到着したら【AEDの実技(ステップ1)】

【まずは、成人・小児の切り替えスイッチを確認】

成人小児、切り替えスイッチを切り替える
その後、セーフティーカバーをかける



【成人(小学生以上)】



【小児(未就学児およそ6歳未満)】



緑の電源ボタンを押す



音声ガイダンスに従い電極パッドを貼る

【AEDの実技（ステップ2）】



心電図を解析中は傷病者へ触れないこと



点滅しているオレンジのショックボタンを押す

【AEDの実技（ステップ3）】



音声ガイダンスが必要なら青い「i」ボタンを押してください。
音声ガイダンスに従い、心肺蘇生法（CPR）を施します。



【胸骨圧迫】

胸の真ん中の平らな骨（胸骨）を、掌底（しょうてい）
と言う手のひらの掌の手首に近い部分で1分間に
100回以上の速さで行う。
（成人では5センチ以上小児では胸の厚さの三分の一）

【人工呼吸】

人工呼吸ができる場合は30：2で胸骨圧迫に
人工呼吸を加える

【強く・速く・絶え間ない胸骨圧迫を！】

救急隊に引き継ぐか傷病者に呼吸や目的のある仕草
が認められるまで、心肺蘇生を続ける。